
基本CG16枚
総数71枚
2年1組魔法少女委員
島津蒼衣は先生が好き

2年1組 魔法少女委員 島津蒼衣は 先生が好き




ほら♥先生
脚立なしでも取れましたよ♥
いやいや島津！
落ちそうになってたじゃないか？
ん…でも先生が支えてくれたじゃないですか？
うふ♥先生と手を繋ぐのは小学生以来です♥


いつも手伝いありがとうな島津
2年1組魔法少女委員として
担任の先生を手伝うのは
当たり前です♥
本来は雑用の委員じゃないんだけど
暇な委員ってなるとどうしてもな


一応だが、魔法少女委員ってのは、
思春期の少年少女たちの多感な感性が共鳴して、
起こってしまう超常現象と戦う委員だからな。
数年前から観測されている思春期特有の怪異現象で、
文科省が全国の学校に委員の設置を決めたんですよね。
よく勉強してるな…えらいぞアオイ…。
うふ♥名前で呼ばれるの久しぶりです♥
多分使う事はないだろうけど
魔法のスティックとかあるけどいるか？
島津
貰います♥
先生からのプレゼントは
何でも嬉しいです♥それと
名前呼びの方が嬉しいです♥
プレゼントじゃねえし
俺は学校じゃ生徒は対等に扱う
全員一律苗字な
じゃプライベートな時はアオイでお願いしますね♥
こいつツエエ…


アオイ…
うちの学校は真面目な生徒が多いし、
多感な思春期特有のトラブルなんてのは
起こりづらいと思うが…
最近クラスの様子おかしくないか？
教師からはわかりにくいが
ギスってる気がする
…ちょっとだけ…
でも先生には言いづらい…かも…？
俺とアオイの関係でもか？
ん…先生だから…恥ずかしいです…
それは男女間のトラブル…
そうか…
とにかく気を付けてくれ…
…心配してる…
うふ♥せんせ♥
私の事が心配です？
だって私も多感な思春期ですもんね♥
でもだいじょうぶですよ♥


私…小学生の頃からずっと
一途に先生が好きです♥
安心してください♥
…そういう心配はしてねえよ？
信頼されてますね♥
嬉しいです。
…俺お前には絶対勝てねえわ…

『思春期共感性同一症候群』

思春期の男女が集う閉鎖された空間にて起こる。
渦巻く思春期の多感な感情が、
そのコミュニティに属する人を現実とは異なる
感情世界に閉じ込めてしまう現象。
その性質からクラス単位で起こりやすく、
クラスの誰か…または複数の感情が、
クラスメイト全員を
自分たちの意識に取り込んでしまう。
その中には外部者は入れず、
クラスの誰かが
解決するしかない。
だから、
クラス単位で、
魔法少女が
委員として置かれている。

そんな特異現象は起こらないと思っていた。
だから主に担任の雑用をするだけの魔法少女委員を選んだ。

でも冷静に考えると、いま2年1組の30名には、
それが起きてしまう程に、感情が渦巻いていた…。



瀬下大樹と川原依里

2人はクラス公認の恋人同士、
2人とも容姿も人柄もよく成績優秀で、
理想的なカップリングだった。
男子が2人をイジって、
瀬下君が明るくごまかして、
川原さんは少し顔を赤らめて照れてる。
それが和やかないつもの雰囲気だった。

でもある日、男子しかいない体育の着替え中
クラスのやんちゃな男子達が、瀬下君をいつものようにイジり始めたらしく。

お前らどこまでヤッてるんだ？

なにもしてないとか
ダサすぎ！

キスとかしてるの？
気持ちいい？

部屋でゲームしてるわけ？
他にしてるよな？

それは普段より少ししつこかったそうで、瀬下君はやや感情的に怒って言い返してしまった。

2人になったらセックスするに決まってるだろ？

あいつ大人しそうな顔してるけど
スゲェ欲しがるんだぜ

フェラチオもする

ヤルときはラブホテル
向こうの家だとしない
ウチだとたまにする

瀬下君が煽られて感情的になって言った言葉は、男子たちが思っていた理想と違って重く生々しく、
それはすぐ女子たちにも知れわたる話に尾ひれがついて大きくなっていった。



クラスは噂で広がって、男子たちはセックスしている女性という歪んだ偏見で川原さんを見てしまい、
時には聞こえるような声で卑猥な言葉を投げかける者もいて、
真面目な川原さんは1週間学校を休むほどに精神的に追い込まれてしまった。
そして女子は、川原さんを守るために男子達を責め始める。
特に責められたのは、男女の秘密をベラベラと生々しく話してしまった瀬下君だ。
2人は多分まだ好き同士だったけど
瀬下君と川原さんは別れるしかなくなり、男子と女子は険悪になり…

私達のクラスから笑顔が消えた。

男女の情愛のもつれ
性への偏見と渇望と嫌悪
人間関係の軋轢

思えば十分すぎるほどに
思春期共感性同一症候群が
発生する条件が揃ってしまっていた。

でも私は学校から他のクラスの生徒が
全員消えていることにすら気づかないほどに
浮かれて教室に戻る廊下をスキップしてる。

私にとってそのくらい
先生と居る時間は楽しいものだった。

そして気づかないままで教室の中の地獄の扉を開いた…。






そこはもう教室じゃなかった。
机や椅子が無重力になったみたいに宙に浮いて、
その中央にたったひとり川原さんが居て
クラスメイト達だったと思われる存在が、
グネグネとした粘土質な手になって川原さんを襲っている。
川原さんの女性器には無数の手が重なり合って
ひとつの肉棒のような存在になって犯している。
思春期の感情が歪んで
起こる怪異現象だった…。
やぁ…らめぇ…
ぐちゅ♡
ぐちゅ♡
ぐちゅ♡


クラスメイトの心の中の闇の声があたりに響いていた…
うおお…川原とヤリたかったんだよなぁ
マジで川原ムカつくあいつがビッチだからクラス全体がギスったんじゃん？
そもそも川原って地味だし瀬下君に不釣り合いだよ
ヤリまくってんだろ？…汚ねぇ女
あの話聞いてから俺川原さんでオナニーしまくった
うわぁあずっとおっぱいでけえって思ってたんだよなぁ
やっぱ開けてるわガバガバ笑う
川原が真面目ブッてんの絶対ウソって思ってた


川原さん！ちょっとだけ待ってて！
助けに戻るから！
アオイちゃん！だめだよ！
逃げて！戻っちゃダメ！
これは私が受ける罰なんだよ…
そんなことない！
川原さん何も悪いことしてないじゃん！
私は魔法少女委員だから…
絶対助けるし！
不思議なことに粘土質の手は、
私には襲い掛からず、川原さんだけを責め続けていた。
私は無事に教室を飛び出して、
この感情世界に居る最後のクラスの一員
先生の所に走り出していた。


先生！大変です！教室が…川原さんが…
落ち着けアオイ
落ち着いてられませんよ！
急がないと川原さんが！
解ってる…学校から…世界中から俺たち以外が消えた…
いや…ホントは逆なんだろうな…
俺たちが世界から特異空間に取り込まれた…
ここは誰かの感情の中の世界…
夢の中のような空間だ。
解決さえすれば、何事もなかったように目覚めて
みんな何もかも元に戻る。
だからまず落ち着け？いいな
はい…わかりました…
情報を総合するとまともに動けるのは
俺達だけ…つまり俺たちが失敗すれば
特異空間は暴走し俺達は
この世界に取り込まれて現実から消える。
絶対に失敗しないために動きます…

使いたくないが魔法のスティック
アレで魔法少女にならないとダメだろう…

先生？…私魔法少女になりますよ？

あのスティックは、
使用者の神経が最も集中し、
そして感情ともつながっている部分に挿入し
適合してはじめて魔法少女として魔力を発揮する。

ん…？それって？

簡単に言うと…
膣に挿入する…
それなりの太さのモノだから

…処女が…

失われるな…だから使いたくない…
玩具のスティックのままにしときたかった。

先生がいるから大丈夫です…
保健室に行きましょう…

そうだな…出血するだろうからな…






よろしくお願いしますね♥先生…
なぁアオイ？上は脱がなくていいんじゃないか？
先生は少し目のやり場に困るようにして言いました。
先生…大好きです…
私の初めて貰ってください…
お…俺は…教師だからお前が生徒のうちは…
それは…出来ない…って何度も…


先生は棒で私の処女を壊すんですか？
それとも愛してるって抱いてくれるんですか？
好きな方を選んでください…
大好きな先生に棒で強姦されたら
私の思春期も暴走しそうですけど
選択肢なんてねえじゃねえか…
小悪魔すぎるぞ…アオイ…


せんせ♡
ん♡


先生は、
私を抱きしめて
キスをしてくれた。
少し強引で
先生らしい
キスが私の
初めてのキスだった。
はぁはぁ…♥せんせズルい…
まだ好きって言ってくれてないのに…
こんなキスするなんて…
ちゅ♡
んちゅ♡


大学の時のバイトの家庭教師の生徒が、俺のこと慕ってくれて、教師になっても追いかけてきてくれて好きにならないわけないだろ？
はい…ずっとお慕いしてます。先生のお嫁さんになるのが私の夢です♥
大人になって同じ気持ちだったらな…
はい…絶対変わりませんから…


先生の性器が私の初めての性器を
割るように中に入ってくる。
ジワリと鈍い痛みがズキズキと
高鳴る鼓動に合わせて全身に響いて
大人になっていくのを感じた。
先生は私の痛みをごまかすように
私を強く抱きしめて行為を続ける。
私も大好きな先生のぬくもりに
痛みとは別の幸福を感じた。
ぬん♡
せんせ♡
入ってる♡
ブチ…
ブチ…


幸せを感じると
私の中から愛液が溢れて
膣の中で先生と絡み合う…
先生は興奮したように
腰を振りはじめて、
保健室のベッドは軋んで
私達のセックスの音と
混ざりあって
淫猥な音を奏でた。
あんあん♡
せんせ♡
そんなしたら
らめ♡らめ♡
ギシ…
パンパン
ギシ…
パン
ギシ…
ぐちゅ♡
ぐちゅ♡
パン
パン


先生は私が一番気持ちがいいところまで
達するのを確かめると性器を引き抜いて
私の身体に向けて大量に射精した…。
私は膣の痙攣に合わせて
全身を震わせながら
それを受け止めた…。
せんせ♡
きそう♡
イク♡
イク♡
んっ♡
ん…♡
ビクッ
ビクッ
ビュルル
ビュルッ
ビュルル


性行為を終えると、私達は余韻に浸る間もなく、
魔法委員に与えられているスティックを
膣に挿入する準備を始める。
先生は、付属の説明書を読みながら、
私に後ろを向かせて、
足を軽く開かせた。
スティックは、
ハート形を
あしらっているが、
どこか卑猥な形状に
見えた…。
せんせ♡
やさしくお願いします♡


スティックは深く膣に入り込んでくる。
先生の太いのが入った後の性器は、
しっかりと奥まで咥え込んでなじんで
締め付ける。
無機質的な感覚は、
男性器とは異なる
不思議な感覚だった…。
あ♡
イくぅ♡
イクッ…


スティックが子宮近くまで届くと、
神経と繋がり合うように
頭の中まで感覚が直結して
全身に快感が走る…。
それに呼応するように
反応したスティックから
リボンが飛び出して
全身を包んでいく…。
ぬ♡ん♡
ら♡め♡
メ♡ス♡イ♡キ♡
ヴぃ
ヴぃ
ヴぃ
ヴぃ


スティックはリボンになって
リボンはフリルやスカートに変化していき
魔法少女の衣装に変わって、
私は魔法少女に変身した。
魔法少女の身体は
浮いてしまいそうなくらい
軽くて
どんな魔物とでも
闘えそうな気がした。


先生！川原さんを助けに行きます！
待て！アオイ！
先生が魔法少女な私を
なでなでしたいのはわかりますけど
川原さんをこれ以上待たせれません
行きます！
じゃねぇよ！
闘い方もわかってねぇだろアオイ！
先生が何か言っていたけど
私は飛ぶように教室に向かった！


川原さん！
魔法少女委員
助けに来たよ！
アオイちゃん…
ダメだよ！逃げて！
これ以上来たら
アオイちゃんまで
『攻撃されるよ！』
川原さん…？
大丈夫だよ
助けるから…行くよ？
冷静に考えないと…
これはクラスの感情が起こしている事象…
だとしたら…男子も女子も…
みんなが川原さんをレイプすることを
望んでいると言うこと？

ガドガド…
ドゴ…
ズドズド…
あらら♡


川原さんの予告通り
近づくとクラスメイトだった手達が、
私の身体を嬲るように襲い掛かってくる…。
らめだよ…
みんなやめて…
私の服を脱がして
乳房を鷲掴みにする腕…
膣に侵入する指先…
こんなものが思春期の感情？
ンン…


その時、先生がやっと追いついて教室に駆け込んできた。
アオイ！何だまってやられてんだ？
さっさと魔法でぶっ飛ばせ！
念を込めたら魔法が出るはずだ！
あは♥先生嫉妬ですか？
他の誰かが可愛い私の身体触ってるから？
そうだよ！オラ
せっかく結ばれたのに
いきなりこれはねえだろ！
どうせ発情したバカ男子が
暴走して
こんな特異空間作ったんだろ！
ぶっ飛ばしてやれ！
エロ男子が原因で
こんなことが起きるなら
世界中が特異空間で消滅すると
思いませんか？
それに女子も混ざってるんです。
…じゃあ何が原因だって言うんだ？


私は先生にだけ聞こえるように声を落とした。
クラスメイトをこうして操っている人は川原さんです…。
…アオイ？
川原ならあっちで襲われてるぞ？
本人も多分自覚してません。
仲良かったクラスがギスギスしてしまったのは自分のせいだっていう強い自責の念…
周りから聞こえてきた責める声…
歪んだ欲望の視線…
ここはクラスメイトが川原さんを責め続ける川原さんの心の中の感情世界です。
この手は川原さんが無意識に動かしています。
だから川原さんの攻撃サインで私を襲い始めた。
真面目な川原ならあり得るな…
でもそれなら手を吹き飛ばしても解決しない。
自責の念に囚われてる川原を倒すわけにもいかない。
どうするんだ？アオイ
はい…
だからもう一人の重要人物…


先生はぶっ飛ばせって
言ったけど
なってみた体感的に
たぶん魔法少女が
特異空間で
撃てる魔法は
1回だけ！
事態を収束できる所を
確実に撃たなければいけない！
バン
ドン


これが川原さんの
感情世界なら
全員が川原さんを
攻撃する？
同じく
当事者で
被害者の瀬下君
彼だけは
攻撃しない。
あれ以来みんなから
川原さんと
関わることを許されず、
1人で過ごしていた瀬下君
隅っこで一人でいる手が瀬下君よ！
瀬下君を魔法で元の姿に戻す！
お願い瀬下君！
川原さんを助けれるのは
あなただけなんだ！

それは姫を悪魔から守る騎士のように
瀬下君が、川原さんに近づくと川原さんは解放されて
瀬下君の所に降りた。

ごめんな依里…
俺はお前が性格的に
自分を責めてるって
わかってたのに
周りを気にして
お前と距離を置いてて
俺はなんて馬鹿なんだ！

ちがうよ…
私の方が悪いの…
大樹はいつも私を
守ってくれてたのに
周りを気にして
大樹は悪くないって
言えなかった…。

自分たちを巡って
クラスがギスギスしたことも
心に影響はあっただろうけど
やっぱり一番は
恋人に与えてしまった影響と、
別れてしまったことの罪悪感が
自責の念として膨れ上がったことが
この空間を作ったんだろう…。


よくやったぞ…アオイ
俺の言うとおりにしてたら解決しなかったな…。
ウフフ…でも私が襲われてるの見て
怒ってくれたの嬉しかったですよ♥
…とりあえずこれで川原の心が解決して
みんな悪い夢から覚めたように元の世界に戻るだろう。
夢だったら…
忘れてしまって
また同じ状況なんじゃないですか？
どうかな？深層心理には残るだろうし…
なにより2人の気持ちを知ってるんだから
解決方法はあるだろう？
せんせ♥私ずっとあの2人が
羨ましかったんですよ？
運命の人と繋がってる感じ…。
でも今日からもう羨ましくないです。
…アオイも夢のように
今日の事忘れてしまって欲しいわ



私がくっつくと先生は照れくさそうにしていた。
そうしている間に私達は気づくと現実の教室に戻っていた。

特異空間での出来事は、先生と私と川原さんと瀬下君の4人しか記憶していなかった。
たぶん特異空間でも人間であったことが条件なんだろう…。
みんな川原さんと瀬下君が恋人に戻ったのを見て驚いていたけど、
かつてのみんなが羨んだその2人を見て
クラスは自然と以前の雰囲気に戻っていった。

先生は2年1組
29人の無事と
魔法少女の活動を
まとめて報告書として
文科省に提出し
この事件を締める事とした。

なのに活躍したはずの
その魔法少女委員の私は、
翌日から学校に行くことが出来なくなった。

けして登校拒否になったわけじゃない。
次の日には、普通に朝起きて制服に着替えて家を出た…なのに学校に辿り着けない。

学校に行く方法がわからない…。

学校の場所はわかっている。
なのに足が別の方向に向かう。
そこに行っても何もない…。
そこで脳がフリーズする。
私はそこから学校に向かう事が出来なくなった。
先生に「助けて」ってメッセージを入れて、
迎えに来てもらって、私は学校に着いてそこからは授業を受けて、
帰路につくと、私はやっぱり途中でフリーズして、家までたどり着けなかった。

その日から私は、登下校は先生としている。

私と先生は交際をスタートさせて、思い描いた幸せな日々を送るはずなのに、
自分の中でナニカが欠落してしまったように、心に穴が開いている。
先生はそんな私らしくない私を丁寧に愛してくれてる。
今日も先生の仕事を少し手伝って一緒に下校して、途中で先生の家に寄った…。




アレ以来
現実世界でも
私達はセックスしてる。
付き合ってるんだから
当たり前だけど♥
ハァハァ♥
先生のさきっぽ
当たってます♥
なぁ…アオイ…
やっぱ教師と学生でこれは…
そんなカチカチのおちんちんして
せんせ言う言葉が違うと思います♥
ん…アオイ…愛してるぞ…
先生は時々エッチはよくないって言うけど
甘えると必ずしてくれるし、とても愛してくれてる。



先生は大人の性器を、
私の小柄な体の奥まで挿し込んで、
激しく腰を振る…。
先生にぐちゃぐちゃに
かき回される膣の感覚で
操られるマリオネットのように
私を先生の腰の振りに合わせて
全身を躍らせながら喘いだ…。
たくさんキスをして、抱きしめられて、
先生は最後に向けて腰を速めた…。


先生は、
私が絶頂に達するまで、
我慢したように腰を振り続けて、
私がイッて痙攣するのを見て、
性器を引き抜くと同時に
私の身体に大量の精液を射精した。
そのあと再び愛を確認するように
私達はキスをした…。
ん♡
ん♡
ピクン
ビクビク
ビクビク
ピクン
ピクン
ビクビク
ビクビク


先生？もしもですよ？
私達があのまま特異空間に飲み込まれてたらどうなったんですか？
まるでこの世に存在しなかったように忘れ去られ消えると言われている。
例えば1組が消滅しても2組3組は当然のように1組の存在すら気づかずに過ごすことになるだろう…。
でも先生…存在しない1組の数字は疑問として残ります。
そういったなぜか使われてない教室とか…
街の空き地とか誰も使わない道とか
そういった物事は消えた何かの痕なんじゃないでしょうか？
アオイ…
お前は賢い子だよ…
でも消えてしまった何かはもう取り戻せないなら
そこに思い悩む必要はあるのか？
俺は賢い君があの事件で悩み続けてる事が一番の不安だよ…。
先生…私魔法少女委員としてもう一度学校を調べたい…。


先生…1組は29人です…。
2組は30人です…3組も30人です。
先生…どうして学校は1組を29人にしたんです？
…記憶にない…
誰かが退学したとか…転校したとか…
事情があれば覚えているはずなんです…。
誰も記憶にないままに29人なんです…。
記憶にないまま人が消えたとしたら…
先生…。
行こう…アオイ…
つまり俺たちは
あの日に1人を特異空間に
忘れてきたって
そういうことだな？
はい！先生！
よろしくお願いします！
こうして私達は、夜の学校に向かった。
私は先生の大きな背中に甘えるようにくっついて歩いた…。

俺もいろいろ調べていた…。
アオイが登下校でいつも辿り着いてフリーズする場所、
二階建ての一軒家に母子2人の家庭…母親は40歳で娘は8歳…
明らかに大きすぎる家…そして母親は免許がないのに車がある。

はい…可愛い娘さんが居る家ですね。
私知ってるんですよ…あの子
ちょっと前はずっと部屋にこもって
登校拒否だったんだけど
今は元気に学校に行ってるみたい。
でもどこで知り合ったかが思い出せないから
声もかけれないのです。

そうか…やっぱり知っている場所なのか…
俺も違和感があったんだが…
お前がまた何かと戦わないといけないと
考えると気づかない事にしていた。
教師失格だな…。

そんなことないです…
いつも優しくて大好きです♥

私達は夜の教室に入った。
私はスティックを挿入し
魔法少女に変身する。
先生は見えてないみたいだったけど
私は認識できた。
教室の隅にそれは
ずっと
存在していたんだ。
それは直径1m程の光の玉
忘れられた
クラスメイトが作った
特異空間への門。
多分私は彼女の存在を朧気ながら
思い出した事でその存在を認識し
魔法少女になることではっきりと見る事が出来た。



私は先生に『いってきます。』と伝えると、
返事を待たずにその光の玉の門に入り込んだ。

その中は、クラスメイトの感情世界…。
中に入ると私は彼女をしっかりと思い出すことができた。

恩田ユミ…私の幼稚園の頃からの大親友

これは多分ユミの記憶

まるで私になぜ特異空間を作ったかを
教えるようにユミはありのままの
私の知らなかったユミを見せてくれた。

ユミは私の大親友…幼稚園からずっと一緒で
小学校から登下校も同じ、私が先生を追いかけて受験をしても、
彼女は私と同じ学校を選んでくれて一緒に進学した。

だからユミを忘れた時、
私は幼稚園児のように学校に行けなくなってしまったのだ。

ユミは
ボーイッシュで
ちょっと
ヤンチャで
真面目で
天然な
私と
いいコンビ

私の知る限り
ユミに彼氏が
いたことはない…
むしろ男性を嫌悪してた。
そのユミの記憶は
男性との性交渉のものだった。




やだよ…パパ…
私にも見覚えがある相手の男性はユミの父親だった…。
父親は嫌がるユミの頭を押さえて口の中に男性器をねじ込む…。
運動神経抜群のユミでも、男性の力の前では無力だった…。
強引に出し入れされる性器をよだれを垂らしながら
受け入れるしかなかった。
父親はそれを
見下ろして
下品に笑う…。
いいぞユミ…
上手いぞ…グへへ
小学生の頃より
随分成長した…


父親はユミに強引にイラマチオして
嫌がるユミの口腔内に大量に射精する。
嫌がり続けるユミに父親は強引に行為を行い続けて、
勝手に満足そうに笑みを浮かべた…。
やだ♡ん♡
やだよ〜
ビュッ
ビュッ


父親はそのままユミをレイプして、
膣内に何度も射精した。
私は、怒りと悲しみと無力さに吐きそうになりながら
そのユミの記憶を眺めるしかなかった…。
大好きな親友のユミは、いつも明るくて私が困ったことがあると
何でも相談に乗ってくれてすぐ解決してくれて…
なのに私はそのユミが、こんな苦しみを抱えていたなんて
気づきもしなかった。
自分の愚かさが悔しい…。
間違いなく
ユミの苦しみが
この特異空間を
作っている…
助けなきゃ…。

ユミの心の中を落ちていくよう…。
もう感情世界は教室の原形を
とどめていなかった…。

ユミは川原さんの世界に入ってしまった時に、
意図的に現実に帰らなかった。
帰りたくないほど
父親に強姦されている現実が
辛かったのかな…？

母親も妹もいて
私や友達が居て
幸せに見えていたけど
そうじゃなかったんだ…
ユミにとって
現実はそこまで過酷だったの…？

この世界は謎がまだ多い…どういう条件で…なぜ生まれるのか？
考えなきゃいけないことがたくさんあるけど…その前に私はユミの所に辿り着いた…。


ズ゛
ズ゛
ズ゛
ズ゛
ズ゛
ぐちゃ
ぐちゃ


ユミ！助けに来たよ！
一緒に帰ろ！
ダメだよアオイ！
帰って！
あたしの事は忘れてよ！
やだ！
ユミがいなきゃ
私は学校もいけないんだよ！
ユミがいない世界なんて
絶対ダメなんだから！
ユミは川原さんと同じように魔物に襲われていた。
多分長い時間ずっとレイプされていたんだ…。
川原さんを襲っていたのはクラスメイト…、ならこの魔物は誰がなっているの？


ユミ…私も先生もいるよ
アレならウチに住んでもいいよ？
こんな所でこんな事されてるなら
現実の方がましだよ
帰ろうよ…
アオイありがとう…
大好きだよ…でもいいんだ
この世界は
思春期の感情ごと
苦しみを魔物に変えて
世界から存在自体
消し去れるんだよ。
川原さんは無意識で
クラスメイトをそうした。
あたしは
パパをその存在ごと
世界から消したい。
だからパパを
魔物に変えた。


ギュ
ギュ
ギュ


ユミ！
そんなのおかし…
ムギュ…
ユミに近づこうとする私を
拘束していく魔物…。
これはユミが望んでいること？
信じたくない…。
ん…
グッ…
や…
魔物の
イモムシに似た形状の
触手が私の口をふさぐ…
ユミを説得することも
許されないまま、
私は触手に口腔内を
犯されていく…。


太い触手が口の中を舌を押しのけるように進み
私の口をレイプしていく…。
体中を這いまわる触手…。
気持ち悪い…
望んでいない性行為を無理やりされて
犯される感覚…
んっんっ♡
ズパッズパッ
ユミがずっと
受け続けてきた凌辱を
知れば知るほど
ユミがここに囚われている
理由がわからなくなる…。


ビュル
ん♡
ビュルル
ビュル
ん♡
んん♡
ビュル
ビュル
ビュッ
ん♡
触手はどんどん
私に向けて射精する…
私は生臭くて苦くて
まとわりついてくる
精液に全身を
汚されていった…。


やなの！ユミと
絶対一緒に帰るの！
私は触手にレイプされながら
魔法少女の力で強引に
ユミのところまでたどり着いた。
アオイ…ダメよ…
私が戻るとダメなの…
解決方法は
戻って探せばいいじゃない！
絶対守るから！


触手は私を強く締め付けて、
膣内に溢れかえるほどの射精をする…。
その激しさに私は苦悶してしまう。
パパ！アオイを離して！
私だけって約束でしょ！
なのに…アオイも…
マナも…
あん♡
ビュルル
ビュルル
ビュル
恩田マナはユミの妹…
明るくて笑顔が絶えない子…
だったのに…
学校も行かずに部屋にこもり
表情がなくなって…
それは父親にレイプされたから


ユミは特異空間の性質で
パパを消して
マナちゃんから
レイプされた記憶を
消滅させたんだね！
だからマナちゃんは
また明るく暮らせてた。
だったら…
出てきなさいよ！
父親なら！
娘にここまでさせて
恥ずかしくないの！


言葉に釣られて父親が姿を現す。
でもその手は私の乳房を揉みしだき、
性器は私の膣に入り込んでくる…。
グフフ…
アオイちゃん…
ハァハァ。
チュパッ
チュパッ


おじちゃんはずっと
アオイちゃんの成長を見て
おっぱいを揉みたかったんだよ？
おじさんやめて
今なら間に合います…
現実に戻ってマナちゃんとユミに
謝ってください…
魔物になってもわかるはずです…。
フゥフゥ
太い性器は、
私の奥まで
入っては、
抜けそうになる
くらいまで出て
激しくピストンする
やめて…
ジュプ…
ジュプ…
ジュプ…

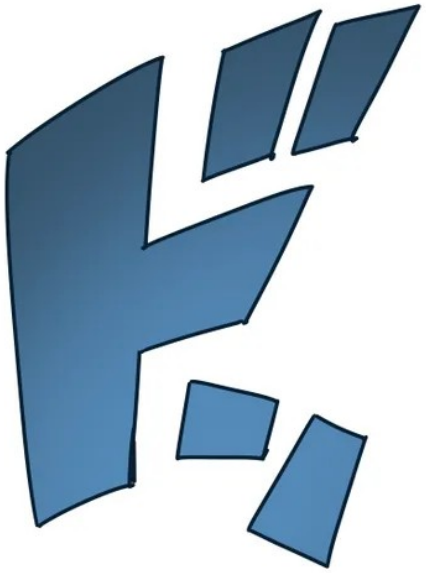

安心してね
おじちゃんは魔物じゃないんだよ
ユミはおじちゃんに
逆らえないから人格は
そのまま残してくれたんだ。
アオイちゃんもここに居ようね？
他のクラスメイトもユミに命令して
女子は全員ここに連れてくるから
寂しくないよ？
おじちゃんとみんなエッチするんだ
淡々とした
口調と逆に
腰は激しく
私を突く
私の小さな
膣は悲鳴を
上げる…。
あんっ
あっ
そんなしゃべるしぃ♡
パン
パン
ぐちゃ♡
パン
パン
ぐちゃ♡


男は獣のように腰を振り続けて
何度も性器を痙攣させて
私の膣内に精液を大量に射出した。
アオイちゃん！
いっぱい孕んで孕んで！
ホラホラ
まだ出るよ！出るよ！
うぁ♡
や！
やだ！
出る…！
中に出てる…！
やだよ
ビュルルルル
ビュルル


最後にチャンスをあげたんだよ？
なのにケダモノのまま腰を振って…
特異空間ごと消えなさい…
キィィィィィィ

魔法少女の魔法は特異空間で一発しか撃てない…
でもその代わりにその空間でどんな無茶でも叶えてしまえる。

今回の願いは
この男の消滅。



これで現実でもこの男の存在ごと消える。
これでみんな救われる…。

呆然としているユミに「パパなのにごめんね…」って謝った。
ユミは「こんなやつパパじゃない…ありがとう。」って返してくれた。
私達はギュって抱きしめ合ってそれから言った。

現実に帰ろう…


ただいま戻りました♥先生


ど…どこいってたんだよ！アオイ…
俺…急にお前のこと忘れてしまって
俺なんで生きてるんだろって？
それで…ずっと立ち尽くしてて
もちろん
私が特異空間に
飲まれていた間は、
この世界から
私の痕跡は
消えていたんだ。
先生の動揺で
見て取れて
ごめんなさい
と同時に
私が居なくなって
取り乱す先生は
愛おしかった。
それから先生は、
私達が裸な事に気付いて
着替えを探しに行った。


その後はというと、ユミの家庭は母子家庭になっていて、
妹のマナちゃんはかつての明るく元気な姿に戻っていた。
そして強姦魔とは言え父親を消滅させた私は、
ちょっとした罪の意識を
感じていたんだけど、
幼少期に離婚した
と言うことに
なっていて、
どこかで
生きているらしく、
時々養育費が
届くのだそうな。
私はうまく
父親の性欲だけを
消し飛ばしたらしい
ということにしとく。
ってわけで私は親友を取り戻して先生と結ばれて
魔法少女委員の任務を果たして
とても優秀だったのでした！